

1. 題材

水墨画に挑戦しよう

2. 目標

- (1) 水墨画の表現技法を工夫し、自らの思いを主体的に表現する態度と意欲を養う。
(関心・意欲・態度)
- (2) ぼかしやかすれ等、墨・顔彩の特徴をもとに、水墨画の構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)
- (3) 表現の意図に応じて、墨・顔彩の濃淡や運筆を工夫し、新鮮な水墨画の表現を工夫できる。(創造的な技能)
- (4) 参考作品や友人の作品を鑑賞し、そのよさを味わい、空間表現の工夫や日本の美術に対する理解を深めることができる。(鑑賞の能力)

3. 生徒と題材

男子22名、女子18名 計40名

美術科における学習活動に常に積極的に取り組み、素材の特性を生かした表現に意欲的な生徒が多い。また絵画表現では水彩や鉛筆、パステル、マーカーといった画材でモチーフを描くことが多く、他の画材はほとんど経験していない。また、水墨画の下描き無なしのダイナミズムを体験させ、画面に生き生きと筆を運ばせたい。またにじみやかすれから、予期しなかった不思議な作品に仕上がる面白さを味わわせ、新たな意欲を喚起させていきたい。

水墨画は、画仙紙や絹に直接墨で描くため、生徒が描く通常の絵画と異なり、独特な表現効果が得られる。また、その制作過程から、より計画性を要する題材でありながら、材料や道具の特性から、時には思いもよらぬ偶然の効果も期待できる。中世以後の禅宗の流入などによって絵画表現に水墨画がもたらされ、精神性を表す手だてとして広まっていく。その日本の美術史の中での役割を知り、現代の水墨画についても、理解を深めさせたい。にじみ、ぼかし、かすれ、そして様々な技法があるが、自己の表現やその姿勢について深く考えることができつつある中学生にとって、感動を墨に託し、表現の多様性や面白さを享受できる題材である。

この題材では水墨画表現の基本的な内容から、専門的な内容にわたっての広い知識と技法の指導も必要である。また構想の段階で、自らが選択する主題をじっくりと検討させ、制作意欲につなげさせることも大切である。主題が決定した生徒には、筆と墨という材料と道具の制約から単純化や省略、デフォルメ等の必要性について指導する。また同じかたちでも、墨の効果や運筆の工夫でまったく趣の違った作品にできることを伝え、テーマの表現にむけて、生徒一人一人にこだわりの表現をさせ、それぞれの作品を満足感をもって鑑賞させたい。

4．指導計画（総時数 4時間 本時3 / 4）

時数	ねらい	学習活動	教師の働きかけ
1	水墨画の仕上げに押す落款を制作することができる。	参考作品から落款の特徴を学ぶ。 文字や字体を選び、消しゴムを彫り進める。	落款の画面での効果を説明する。 自分だけの落款をていねいに彫り進められるように、彫刻刀の使い方を示す。
1	自分の感動を墨や顔彩に託し、テーマを設定し、描くことができる。	資料を準備し、自分のイメージに沿った構図を決め、描く。	美術室に参考作品を掲示しておき、構図や表現方法についてイメージが高められるようにしておく。 墨の濃淡や運筆を検討できるように資料を準備する。
1 本時 3 / 4	水墨画の日本美術の中の位置づけを知り、表現の多様性について理解することができる。	水墨画の歴史と特徴を知り、技法や工夫に込められた精神性を日本美術の中で理解する。	日本にもたらされた水墨画がどのように発達し、日本に根付いたかを紹介してもらう。 水墨画の特徴にこめられたテーマを感じ取れるようワークシートを準備する。
1	互いの作品を鑑賞し、表現の工夫や水墨画の特徴を認め合うことができる。	仲間の主題を理解し、作品を鑑賞する。	落款の位置や選択した技法などに注目させ、表現意図を理解させる。

評 価 基 準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>自分だけの落款をつくろうと制作に向かうことができる。</p>	<p>篆刻の技法を理解し、主題を決定することができる。</p>	<p>字体にあった彫り方を工夫し、落款を仕上げることができる。</p>	<p>参考作品から落款の特性を理解し、よさを見つけることができる。</p>
<p>水墨画表現の多様さを知り、主体的に表現していこうという意欲をもつことができる。</p>	<p>主題を検討し、技法を選び構想することができる。</p>	<p>水墨画の特性を理解し、画面構成の計画をもち、主題を表現することができる。</p>	<p>参考作品から見通しを持ち、墨色の美しさを理解することができる。</p>
<p>日本美術のなかの水墨画について、その魅力を感じ取るようにすることができる。</p>			<p>水墨画の名品に触れ、これからの自らの作品に生かそうとする。 日本美術の特質やよさを理解し、大切にしていこうとする</p>
<p>互いの作品の工夫を見つけようとする。</p>			<p>水墨画の可能性を広げようとしたがんばりを認め合うことができる。</p>

5 . 本時の計画 (3 / 4 時間)

(1) ねらい

水墨画の日本美術のなかの位置づけを知り、表現の多様性について理解することができる。

(2) 学習過程

学習活動	形態	個に対する配慮と評価	資料・準備
1 活動の流れを確認する。	一斉		水墨画のシート 作品
2 水墨画を描いての感想を発表する	班	墨色の作り方 筆の運び方 ぼかしなど特殊な方法 など工夫したところ、苦労した観点をまとめさせておく。	シート
3 水墨画の特徴を聞き、ある作品の表現意図についてまとめる。	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 一枚の水墨画の主題について学び、表現の工夫を知り、作品に至るまでの思いを感じ取ることができる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水墨画の特徴を聞き、日本美術の流れと特質を理解することができる。 </div>	学習カード
4 これからの作品制作に生かせる部分を考える。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水墨画の学習を次の制作に生かそうと意欲をもつことができる。 </div>	